

フロンティアスクール中間報告書

高知県

．学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鏡村立鏡中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	2	5	1 2
生徒数	1 3	1 3	2 0	2	4 8	

． 研究の概要

1．研究主題

「自ら学ぶ生徒の育成 ～個に応じた指導法・指導体制の工夫改善と検証～」

2．研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 「個に応じた指導の実践と現状の把握」</p> <p>研究の見通し（仮説） 「場面を設定して個に応じた指導を行い、評価をしていけば、指導法や指導体制の課題が明確になり、現状の把握ができるであろう。」</p> <p>研究の内容・方法 ・選択教科での複数教員による指導から、習熟度別学習のあり方を探る ・日々の指導に生かせる個人カルテの作成 ・授業評価による日々の授業改善 ・朝読書の習慣化</p>
--------------------	---

平成 15 年 度	<p>テーマ 「自ら学ぶ生徒の育成 ～個に応じた指導法・指導体制の工夫改善と検証～」</p> <p>研究の見通し (1) 仮説 「授業中における評価活動（授業評価システム、診断的な評価等）を継続的に行い、分析し、課題を明らかにしながら、授業改善に生かす取り組みを進めることにより、複数教員による指導方法や個に応じた指導体制の課題や改善の成果が明らかになるだろう。」 (2) 予想される成果 きめ細かな指導が図れ、学力向上の効果が期待できる。 意欲的に行事や部活動などに取り組む生徒を育てることができる。</p>
--------------------	---

研究の内容・方法

< 生徒の学習意欲を高める研究 >

1. 授業における指導と評価の一体化
 - (1) 指導に生かす評価のあり方
 - 評価規準の設定
 - 個人の学習状況の記録
 - 授業評価システムの活用
 - (2) 研究授業のあり方
2. 具体的取組
 - (1) 生徒の学習状況を客観的に把握できる評価規準を単元ごとに設定する。
 - (2) 授業評価アンケートなども活用しながら、客観的に具体的な評価を行い、その結果をもとに個に応じた手だてや支援を行っていく。
 - (3) 各教科で評価規準を設定した単元の指導案をもとに、研究授業を行って研修を深める。

< 生徒の主体的な活動を促進する研究 >

1. 特別活動における指導と評価の一体化
 - (1) 指導に生かす評価のあり方
 - 評価規準の設定
 - 行動の記録
 2. 生徒会活動の活性化
 - 話し合い活動の推進
 - 発表の場づくり
3. 具体的取組
 - (1) 各活動ごとにアンケートなどを活用して自己評価させ、生徒理解への資料とする。
 - (2) 個人カルテを作成し、教職員全体に分かるような資料とする。
 - (3) 各生徒会組織ごとに目標やねらいを設定し、定期的に話し合いの場を持ち、全校集会などで発表させる。。

平成
16
年
度

テーマ

「自ら学ぶ生徒の育成 ～ 評価を生かした指導による課題の改善 ～ 」

研究の見通し

- (1) 仮説
「学校生活全般の評価活動（評価規準による授業での到達度診断、授業評価システム、学校教育診断評価等）を継続的に行って、分析し、課題を明らかにして、授業や生活場面における指導の改善を進めることができれば、自ら学び、意欲的に活動する生徒が育ち、学力の向上が期待できるであろう。」
- (2) 予想される成果
 - 評価に基づく指導の改善により、よく分かる楽しい授業が多くなるとともに、生徒の学習意欲が高まり、確かな学力の向上が期待できる。
 - 評価に基づく指導の改善により、意欲的に諸行事、生徒会活動や部活動に取り組む生徒が増え、活気にあふれた学校生活の実現が期待できる。

研究の内容・方法

< 生徒の学習意欲を高める研究 >

1. 授業における指導と評価の一体化
 - (1) 指導に生かす評価のあり方
 - 評価規準の作成
 - 個人の学習状況の評価と記録
 - 評価を重視した年間指導計画の作成
 - (2) 研究授業による指導の改善
 - 授業評価システムによる指導の改善
 - 外部講師を招き、明らかとなった課題の改善方策を具体的に研究する。
2. 具体的取り組み
 - (1) 生徒、同僚や部外者による授業評価と研究協議などから明らかとなった課題の改善方法を具体的に研究し、実践する。
 - (2) 具体的な評価規準を作成し、それを活用した指導法の改善を進め、基礎・基本の確かな定着を図る。
 - (3) 授業評価システムの一層の効果的運用を工夫する。

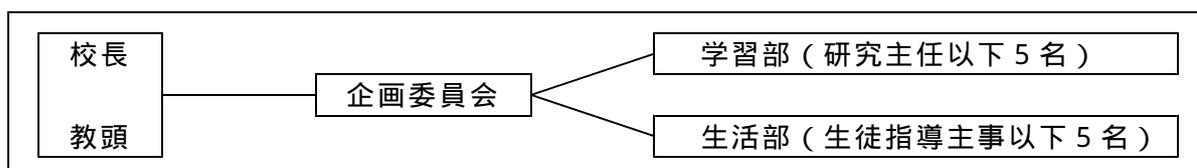
< 生徒の意欲的・主体的活動を引き出す研究 >

1. 特別活動における指導と評価の一体化
 - (1) 評価規準・診断結果に基づく指導の改善
 - (2) 行事や生徒会活動などにおける事前事後の指導のあり方
 - (3) 個人の活動状況の評価と記録
2. 生徒会活動における指導の改善
 - (1) 話し合い活動の推進
 - (2) 発表の場における指導の改善
3. 基本的生活習慣の確立と家庭学習の充実
4. 具体的取り組み
 - (1) 各活動ごとにアンケートなどを実施して診断・評価させ、P：活動の計画
D：実施 S：診断 C：改善のサイクルにより、課題を改善する。
 - (2) 個人カルテを作成し、生徒個々の姿が分かるような資料とする。
 - (3) 各生徒会活動や行事ごとに目標やねらいを設定し、事前事後に自主的な取り組みになるよう、話し合いの場と時間を確保し、集会など、生徒発表の場を保証する。

< その他 >

PTA が主催となって開催している家庭教育学級を充実させ、生徒・教職員・保護者・地域の連携を確かにする。

(3) 研究推進体制



企画委員会は、原則、校長・教頭・教務主任で構成しているが、研究主任（学習部長）や生徒指導主事（生活部長）が適宜加わることにより、研究推進委員会や学校評価委員会等の役割も兼備している。

・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度は、授業と特別活動における評価を中心に研究を進めてきたが、その成果としては次のような点が考えられる。

評価規準の作成と評価を生かした指導法の工夫を重点に置いたため、学習目標がより明らかになり、生徒の活動がより見えるようになってきた。

基礎・基本をより定着させることができ、その成果を目に見える形で記録していくような取り組みがなされた。

校内研修や研究授業を通して、指導と評価の一体化に向けての教職員の意欲が高まってきた。

学校生活全体を通して、生徒自身が目的を持って活動する場面が多く見られるようになった。

2. 今後の課題

各教科の授業や特別活動を通して明らかになってきた課題は次の点である。

生徒が主体的に考えることができる場面を計画的に設定できていないことが多いため、生徒自身が課題を持って取り組めていない。

学習の場面に応じた効果的な学習形態を工夫できていない。

生徒自身の自己評価や相互評価をさせるための工夫が足りない。

特別活動におけるねらいを他の活動にも生かしていくための計画や話し合いが不十分。

評価と指導のシステム化を進めていくこと。

これらの課題を改善していくためには、学校の教育活動すべてを見直しながら、教職員が意志統一をはかるとともに、生徒を信頼して、日々改善を怠らないことが大事だと考えている。そのためにも、計画と話し合い、目標と取り組み、そして振り返って改善点を探ることを忘れないようにしたい。

・学力把握のための学校としての取組

次の各種調査を実施し、分析を行った。

(1) A A Iの実施と分析(1・2学期)

(2) C R Tの実施と分析(2・3学期)

(3) 学校評価アンケートの実施と分析(3学期)

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

次の普及方法を計画している。

(1) H Pを公開して、鏡中教育を広報する。

(2) 研究発表会を行って、本校の研究成果の一端を報告する。

[平成16年11月26日(金)予定]

(3) 研究のまとめを冊子として作成し、近隣校に配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無